

揺れがおさまった

◆火元を確認

- ・火が出てあわてずに初期消火。

◆家族は無事か？

- ・万一倒壊した家に閉じ込められたら、大声を出したり、ナベやフライパンを叩くなどして、自分の居場所を知らせましょう。

◆危険予想地域では即避難

- ・津波や山・崖崩れの危険が予想される地域では、一刻も早く安全な場所に避難しましょう。

そのためには

消火器や水を入れたバケツを常備しておきましょう。

危険予想地域内かどうかを調べておきましょう。

避難地までの避難経路を確認しておきましょう。

みんなは無事か？

◆近くに火の手は？

- ・みんなで協力して消火活動。
- ・火の手が大きくなったら、消防署に連絡しましょう。

◆余震に注意

- ・大地震の後には余震が発生します。家屋の倒壊や落下物などには注意しましょう。
- ・傾いた家には入らないようにしましょう。

そのためには

日ごろから自主防災活動に参加しましょう。

防災訓練で消火方法を学んでおきましょう。

自主防災倉庫がある場所や防災資機材の使い方を確認しておきましょう。

正しい情報の入手を

◆デマに注意

- ・ラジオをつけましょう。
- ・市町村や自主防災組織などからの正しい情報を確認しましょう。

◆電話はなるべく使わない

- ・消防関係の緊急連絡を優先させましょう。

そのためには

安否の確認は災害用伝言ダイヤル「171」を活用しましょう。

みんなで救出救助・応急救護

- ・自主防災組織や隣近所では、倒壊した家屋からの救出救助に協力しましょう。
- ・救出が難しい場合は警察署や消防署に連絡しましょう。
- ・軽いケガは自分で処置しましょう。
- ・医療機関での処置が必要なケガは、市町村が定めた最寄の救護所へ。ケガ人の搬送もみんなで協力しましょう。

そのためには

防災訓練などで応急救護の方法を覚えておきましょう。

どこが救護所になるのか、地域の防災マップなどで確認しておきましょう。

自宅が危険・倒壊、避難所へ

- ・自宅を離れるときには、ガス栓を閉め、電気のブレーカーを切りましょう。
- ・家族の安否や行き先などがわかるように伝言メモを玄関などに残しましょう。
- ・子供の迎えはあらかじめ決められた方法で。
- ・ブロック塀の倒壊、自動販売機の転倒、看板やガラスの落下などに注意しましょう。

そのためには

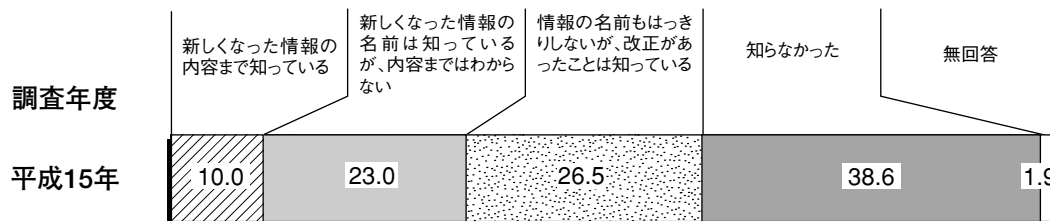
各家庭で緊急時の行動を確認しておきましょう。

避難所までの避難経路を確認しておきましょう。

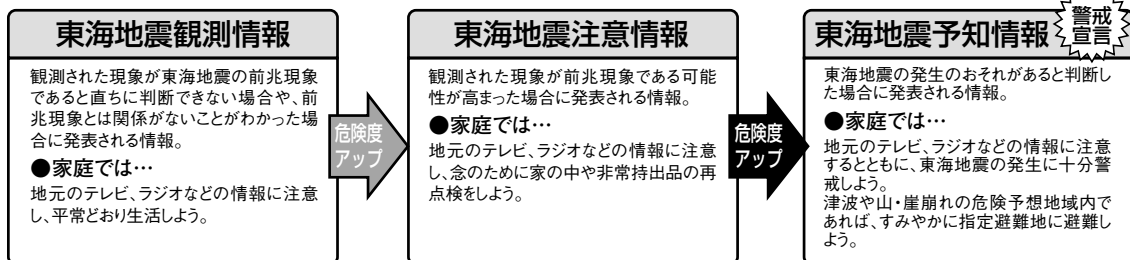
非常持出品を用意し、すぐに持ち出せる場所に置いておきましょう。

東海地震に関する情報は、発生危険度に応じて3段階で発表されます。

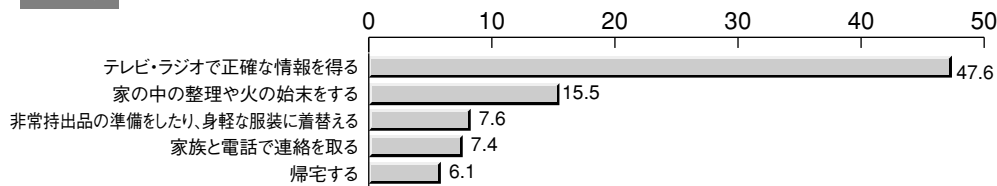
Q 東海地震に関して発表される情報が、3段階になったことをご存知ですか。



東海地震に関連する情報

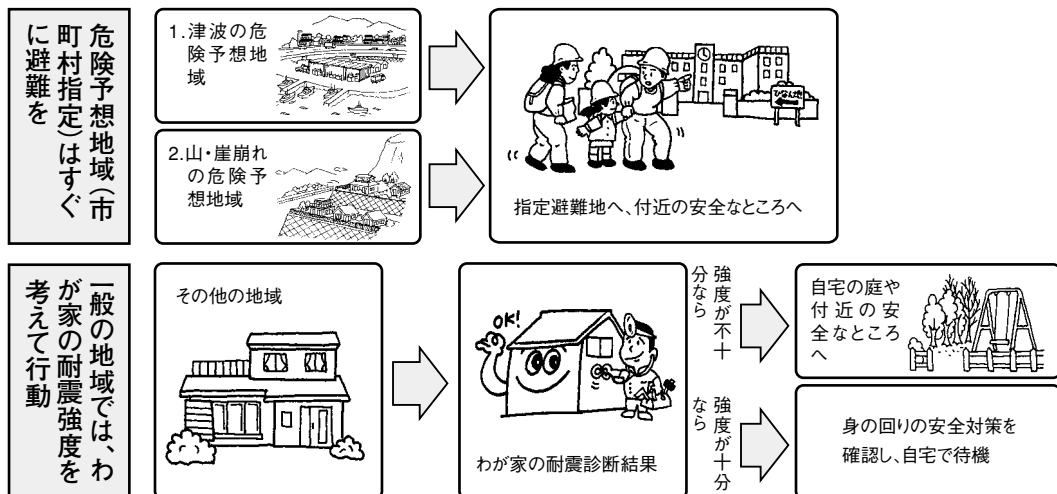


Q 「警戒宣言」を知ったとき、あなたは最初に何をしますか。



警戒宣言はテレビ・ラジオ・同報無線・サイレン等でお知らせします。
これらの情報に注意し、落ち着いて、住んでいる地域に合った適切な行動をとりましょう。

警戒宣言発令時のあなたの避難先は？



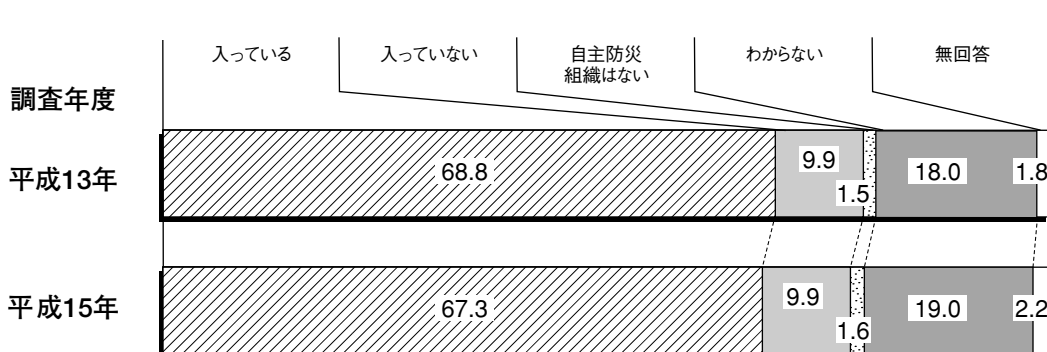
※ただし、延焼火災の危険が予想される住宅密集地域の人はいつでも避難できる準備をする。

誰もが自主防災組織の一員であることを確認してください。

防災対策をすすめるためには、地域内での連携が大切です。



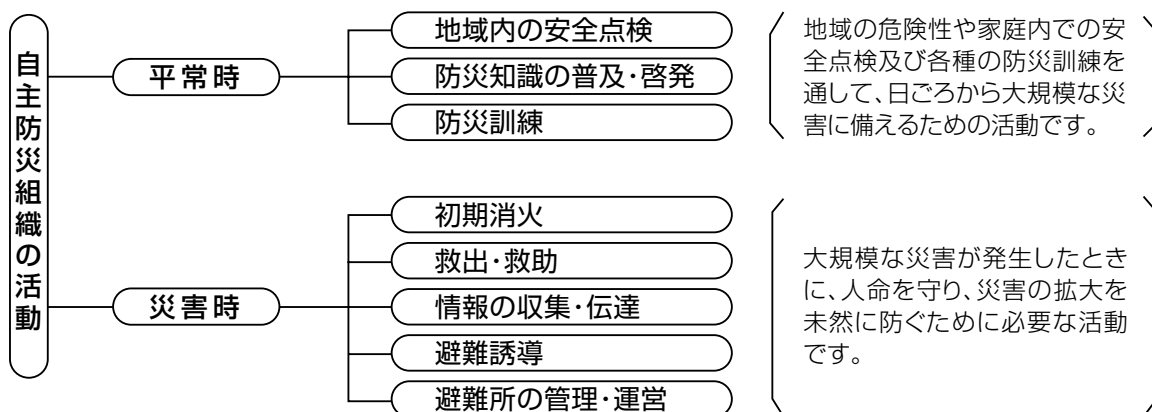
あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。



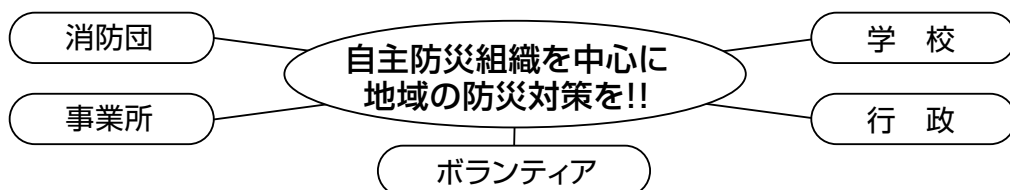
静岡県内の自主防災組織の組織率はほぼ100%です。

自らの命は自ら守る。自らの地域は皆で守る。—— 県民一人一人が自主防災組織のメンバーです。

予想される東海地震から自分や家族を守るためには、地震に備えて普段から十分な準備しておくことが大切です。しかし、個人や家族の力には限界があり、大きな災害に立ち向かうときには、危険や困難を伴う場合があります。このような時、毎日顔を合わせている隣近所の人たち皆が集まって、災害の拡大防止のために協力し、助け合う組織があれば、きっと役立つでしょう。これが自主防災組織です。



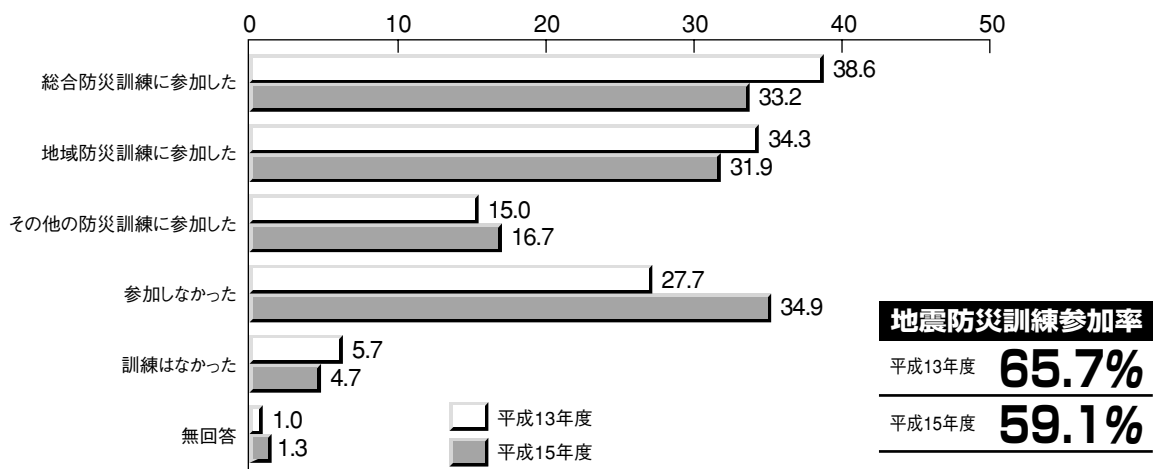
地域には防災に携わる様々な人たちがいます。いざという時には、お互いが協力し合い、一丸となって防災活動に取り組みましょう。



自主防災組織が中心となる地域防災訓練への参加がまだまだ少ないようです。
隣近所で声を掛け合い、訓練には皆で参加しましょう。

Q

過去1年間に、地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。



◆総合防災訓練（9月1日）（防災の日）

想定：東海地震の発生が予知されたことを想定

国・県・市町村・各防災関係機関・自主防災組織が協力して実施します。警戒宣言の発令時や発災時に、各家庭や地域の自主防災組織が計画している対策を行い、防災行動を身につけることを目標とします。

◆地域防災訓練（12月の第1日曜日）（地域防災の日）

想定：突然東海地震クラスの大地震が発生したことを想定

各市町村単位で、自主防災組織を中心に地震発生後の避難、消火、救護など一連の対応訓練を行います。それぞれの地域の特性を生かした訓練を実施し、防災活動を身につけることを目標とします。

◆津波避難訓練（津波対策推進旬間（7月1日～10日）中の定めた日）

想定：突然地震が発生し、津波警報が発令されたことを想定

県・沿岸36市町村、各防災関係機関、自主防災組織が協力して実施します。住民に対する情報伝達、観光客等海浜利用者への避難指示、遭難者救助訓練、防潮水門閉鎖訓練等を実施し、防災行動を身につけることを目標とします。

◆個別訓練

各自主防災組織において情報の収集伝達・救出救助・初期消火など、個々の訓練を行い、それぞれの行動を身につけることを目標とします。